

はじめに .....	2
10.5.7 の重要な特記事項.....	2
Deferment.....	2
Enterprise Data Preparation (EDP) リリースの遅延.....	3
サポートの終了.....	3
サードパーティサポートの更新.....	3
インストールおよびアップグレード.....	3
インストールおよびアップグレード.....	3
アップグレードパス(10.5.7).....	4
アップグレードした後に.....	5
10.5.7 で修正された問題.....	7
Data Engineering Integration の修正された問題 (10.5.7) .....	7
Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5.7) .....	7
Informatica Analyst の修正された問題 (10.5.7) .....	11
On Premise Connectivity Fixed Issues (10.5.7) .....	11
PowerCenter の修正された問題 (10.5.7) .....	12
プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題 (10.5.7) .....	13
Test Data Management の修正された問題 (10.5.7) .....	14
サードパーティ製品に関する修正 (10.5.7) .....	14
10.5.7 の既知の問題 .....	15
Data Engineering Integration の既知の制限事項 (10.5.7) .....	15
Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (10.5.7) .....	16
Informatica Data Quality の既知の制限事項(10.5.7).....	17
Enterprise Data Catalog の既知の問題 (10.5.7) .....	17
Informatica Developer の既知の問題 (10.5.7) .....	17
On Premise Connectivity Known Issues (10.5.7) .....	18
サードパーティ製品に関する既知の制限事項(10.5.7).....	18
10.5.7 に統合された緊急バグ修正.....	19
累積的な既知の制限事項 .....	19
Data Engineering Integration の既知の制限事項 (累積) .....	19
Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (累積) .....	19

Enterprise Data Catalog の既知の制限事項（累積） .....	20
オンプレミス接続の既知の制限事項（累積） .....	20
サードパーティ製品に関する既知の制限事項（累積） .....	21

## はじめに

Informatica 10.5.7 は、複数の緊急バグ修正、制限された機能、既知の問題、およびバグ修正に関する情報を含んだ HotFix リリースです。

HotFix は、PowerCenter、Informatica Data Quality、Data Engineering 製品、Data Catalog 製品、Data Privacy Management、および Test Data Management 製品をサポートします。

この HotFix は Linux および Windows で利用可能で、[Informatica Network](#) からダウンロードすることができます。

**注:** 更新された機能がガイドに含まれていない場合でも、製品ドキュメントはメジャーリリースごとに更新されます。更新された機能がガイドに含まれている場合にのみ、サービスパックと HotFix の製品ドキュメントが更新されます。サービスパックまたは HotFix のガイドが見つからない場合は、以前のバージョンを参照してください。

## 10.5.7 の重要な特記事項

Informatica 10.5.7 リリースには、次のような重要な特記事項が含まれています。

### Deferment

This section describes the deferment changes in version 10.5.7.

#### IBM AIX インストールの保留

バージョン 10.5.7 では、Informatica は AIX オペレーティングシステム用の製品インストーラの提供を保留します。現在使用している Informatica アプリケーションは AIX で引き続き使用できます。ただし、AIX オペレーティングシステムでは Informatica 10.5.7 のインストールや Informatica 10.5.7 へのアップグレードを行うことはできません。

保留された機能は、現在のリリースでは使用できないか、サポートされていません。Informatica では、今後のリリースで復活させるつもりですが、市場や技術的な状況の変化に応じて復活しない場合もあります。

#### Deferment for PowerExchange® for Tableau V3

Effective in version 10.5.7, PowerExchange® for Tableau V3 for PowerCenter and Informatica® PowerExchange® for Tableau V3 are deferred and are unavailable.

保留された機能は、現在のリリースでは使用できないか、サポートされていません。Informatica は、今後のリリースでこの機能を再度利用できるようにするつもりですが、市場や技術的な状況の変化に応じては利用できないままとなる場合があります。

## Enterprise Data Preparation (EDP) リリースの遅延

Enterprise Data Preparation (EDP) は、現在の 10.5.7 リリースには含まれていません。

EDP は後日利用可能になる可能性があります。現在 EDP をご利用中のお客様については、バージョン 10.5.7 へのアップグレード計画を延期することをお勧めします。EDP に関する最新情報は今後順次お伝えいたします。

## サポートの終了

Informatica 10.5.7 リリースには、次のようなサポート終了の通知が含まれています。

### 画面上のインタラクティブチュートリアルサポートの終了

バージョン 10.5.7 では、Enterprise Data Catalog の画面上のインタラクティブチュートリアルサポートが終了しました。

## サードパーティサポートの更新

バージョン 10.5.7 では、Informatica クライアントアプリケーションに、次のようなサードパーティツールと標準のアップデートバージョンが必要です。

### Azul JDK 11

バージョン 10.5.7 では、Informatica クライアントアプリケーションは Azul Java Development Kit のバージョン 11 を使用します。

詳細については、『10.5.7 製品可用性マトリックスドキュメント』を参照してください。

### OpenSSL 3.X

バージョン 10.5.7 では、Informatica クライアントアプリケーションは OpenSSL ソフトウェアライブラリのバージョン 3.x を使用します。

詳細については、『10.5.7 製品可用性マトリックスドキュメント』を参照してください。

## インストールおよびアップグレード

バージョン 10.5.7 でのインストールとアップグレードについては、このセクションを確認してください。

## インストールおよびアップグレード

Informatica バージョン 10.5.7 は HotFix リリースです。このバージョンは、統合インストーラの一部として、PowerCenter、Informatica Data Quality、Data Engineering 製品、データカタログ製品、Data Privacy Management、および Test Data Management 製品をサポートします。Test Data Management と Data Privacy を使用するには、HotFix の適用に加えて、サービスのアップグレードが必要です。

Informatica バージョン 10.5.7 は、次のいずれかのインストール方法で使用できます。

- 新規インストール

- サポートされているバージョンからのアップグレード
- 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、または 10.5.6 に HotFix を適用します。

HotFix を製品にインストール、アップグレード、または適用する手順は、各製品の個別のガイドに記載されています。

## アップグレードパス(10.5.7)

実行するアップグレードパスは、アップグレードする製品に応じて異なります。直接アップグレードをサポートしていないバージョンを使用している場合は、サポートされるバージョンに先にアップグレードしておく必要があります。

次の表に、インストーラでサポートされる各製品のアップグレードパスを示します。

製品	バージョン
PowerCenter	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、および 10.5.5 に対して 10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.7 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1</li> </ul>
Informatica Data Quality	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 に対して 10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.7 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1</li> </ul>
Data Engineering Integration Data Engineering Quality	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 に対して 10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.7 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2</li> <li>- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2.1</li> <li>- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2.2</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1</li> </ul> <p><b>重要:</b> Informatica インストーラでサポートされている他の製品と同じドメインに Data Engineering がある場合は、10.5.7 にアップグレードする前に、すべての製品がサポートされている同じアップグレードバージョンにアップグレードされていることを確認してください。</p>
Data Engineering Streaming	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 に対して 10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.7 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2.2</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1</li> </ul>

製品	バージョン
Data Privacy Management	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 に対して 10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5 にアップグレードしてから、10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1</li> </ul>
Enterprise Data Catalog	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 に対して 10.5.7 を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、または 10.5.4 にアップグレードしてから、10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1</li> </ul> <p><b>重要:</b> Enterprise Data Catalog と Data Engineering が 10.4.1、10.4 より前のバージョンの同じドメインにある場合は、10.5.7 にアップグレードする前に、それらをバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、または 10.5.4 にアップグレードしてください。</p>
Enterprise Data Preparation	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 に対して 10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 にアップグレードしてから、10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4</li> <li>- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1</li> </ul>
Test Data Management	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 に対して 10.5.7 HotFix を適用できます。</p> <p><b>重要:</b> Data Engineering、Enterprise Data Catalog、および Enterprise Data Preparation が 10.4.1、10.4 より前のバージョンの同じドメインにある場合は、10.5.7 にアップグレードする前に、それらをバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、または 10.5.5 にアップグレードしてください。</p>

## アップグレードした後に

10.5.7 にアップグレードした後に、設定後のタスクを完了します。

## Post Upgrade Changes for Informatica PowerExchange for Greenplum

Register the GreenplumConnector.xml plug-in

After you upgrade to 10.5.7, the PowerCenter Greenplum mappings might fail unless you register the GreenplumConnector.xml plug-in again.

Additionally, launch the PowerCenter client using Workflow Manager and update the following:

For the existing Greenplum connection type, modify the **Driver Name** attribute from **DataDirect 7.1 Greenplum Wire Protocol** to **DataDirect 8.0 Greenplum Wire Protocol**.

## Informatica PowerExchange for PostgreSQL のアップグレード後の変更

### postgres\_Plugin.xml の登録

10.5.7 にアップグレードした後に postgres\_Plugin.xml を再度登録しない場合、PostgreSQL のマッピングが失敗する可能性があります。

## Informatica PowerExchange for Snowflake のアップグレード後の変更

### SnowflakeCloudDataWarehousePlugin の登録

10.5.7 にアップグレードした後に SnowflakeCloudDataWarehousePlugin を再度登録しない場合、Snowflake のマッピングが失敗する可能性があります。

## Post-Upgrade Changes for Cloudera CDP Public Cloud

After you upgrade to 10.5.7, if you use Cloudera CDP Public Cloud 7.2.18, the mappings with Hive as the source and flat files as the target might fail in blaze mode.

## Post-Upgrade Changes for JD Edwards EnterpriseOne Mappings

After you upgrade to 10.5.7, the mappings with JD Edwards EnterpriseOne as the source and flat file as the target might fail.

To run the mappings successfully, set the following custom property in the Process tab of Data Integration Services:

Custom Property: ExecutionContextOptions.JVMOption1

Path: -Ddefault\_path=<INFA\_HOME>/connectors/thirdparty/infa.jdee1/common

## Post-Upgrade Changes for MSDynamics CRM Connector on Ubuntu22 Platform

After you install or upgrade to 10.5.7, the MSDynamics CRM connector might fail on Ubuntu22 platform.

To run the connector successfully, delete the jakarta.xml.bind-api.jar file from the node in which the PC Integration service related to MSDynamics runs. The path for the jakarta.xml.bind-api.jar file is INFA\_INSTALL/server/bin/jabalib/jakarta.xml.bind-api.jar.

## PowerExchange for JD Edwards EnterpriseOne ライブラリファイルの場所の更新

バージョン 10.5.7 にアップグレードした後に、JD Edwards EnterpriseOne 9.1 および 9.2 ツールセットのライブラリファイルを<JD Edwards EnterpriseOne <9.1/9.2>インストールディレクトリ>\JDEdwards\<E910/E920>\system\classes から新しい場所<PowerCenter インストールディレクトリ>\clients\PowerCenter\client\bin\javalib\401300 にコピーします。

詳細については、『Informatica PowerExchange for JD Edwards EnterpriseOne ユーザーガイド』を参照してください。

## PowerExchange for JD Edwards EnterpriseOne の xerces.Impl\_2.12.2.jar ファイルの場所の更新

10.5.7 にアップグレードした後に、JD Edwards EnterpriseOne の xerces.Impl\_2.12.2.jar ファイルを <Informatica インストールディレクトリ>\clients\DeveloperClient\plugins\ から新しい場所 <インストールディレクトリ>\clients\DeveloperClient\connectors\thirdparty\infa.jdee1\common にコピーします。

設定ファイルを除く、設定フォルダ内のすべてのファイルを削除します。キャッシュをクリアするには、<INFA\_HOME>\clients\DeveloperClient\clearCache.bat を実行します。

詳細については、『Informatica PowerExchange for JD Edwards EnterpriseOne ユーザーガイド』を参照してください。

## 10.5.7 で修正された問題

このセクションには、10.5.7 で修正された問題と拡張要求が含まれています。

### Data Engineering Integration の修正された問題（10.5.7）

#### 修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
BDM-42301	エクスポートされたマップレットから複数の入力グループを識別できないため、Runtime SDK がマップレットの実行に失敗する。
BDM-42287	データ統合サービスレベルで「最大並列処理」ランタイムプロパティが 1 より大きく設定されている場合に、管理コンソールの監視タブに合計ではなく最後のパーティションのレコード数が誤って表示される。

### Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求（10.5.7）

#### 修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
SCAN-7646	算術式を含む Power BI レポートをエクスポートすると、予期しないエラーが発生する。
SCAN-11977	運用メタデータを無効にすると、Metadex Azure Data Factory スキャナには最初の反復のリネージュが表示され、forEach アクティビティのすべての反復の処理が失敗する。



問題	説明
EIC-68397	[リネージュと影響] タブから [アセットサマリ] ページにアクセスすると、フィルタメニューオプションが重なって、見たことのない記号が表示される。
EIC-68372	Google BigQuery のデータ検出ジョブまたはプロファイリングジョブが、BIGNUMERIC データ型の NULL ポインタ例外で失敗する。
EIC-68357	複数のプロジェクトのテーブルに同じ名前を使用すると、Qlik Sense リソースに対して抽出されたリネージュによって、他のプロジェクト内の同じ名前を持つテーブルのリネージュが上書きされる。
EIC-68300	Enterprise Data Catalog が、NOT スキーマに設定された Microsoft SQL Server スキーマフィルタのすべてのスキーマ（システムスキーマを含む）を誤って取得する。
EIC-68297	アップグレード後、権限がすべてのユーザーに非表示となっている場合に、Enterprise Data Catalog のメニューに検索プレフィルタが表示されていなかった。
EIC-68245	一括インポートおよびエクスポート機能に、特定のクラスに割り当てられ、リソースレベルでプロパゲートされたカスタム属性が正しく適用されていなかった。
EIC-68232	データオブジェクトの事前フィルタで二重引用符 (") を含む名前のアセットを検索すると、LDM カタログが結果の取得に失敗していた。
EIC-68217	アセットリネージュページをロードすると、ページが更新されるたびに、ページに誤った数のアセットがロードされる。
EIC-68213	Google BigQuery リソースで NULL ポインタ例外が発生し、メタデータスキャンの完了が妨げられることがある。
EIC-68205	ソース修飾子トランスフォーメーションで解析エラーが発生すると、エラーによってソースファイルがリネージュ図に正しく表示されなかった。
EIC-68204	BDM Scanner が、1 つのマッピングから重複するルックアップ参照データセットを抽出する。objectId が正しくない重複する参照データセットに、データ要素またはリネージュが含まれていない。
EIC-68203	構文エラーのため、PowerCenter マッピングでリネージュが使用できない場合がある。
EIC-68173	Enterprise Data Catalog でリソースを検索またはエクスポートするときに、[モニター] タブが開いているとページの更新が失敗し、手動でページを更新するまで最新のジョブ実行が表示されない。
EIC-68165	Oracle リソースで、SQL クエリに <> 演算子が含まれていると、Enterprise Data Catalog UI でのスキャン後に <> 演算子が誤って消去される。
EIC-68152	Catalog のユーザーインターフェースで、カラムアセットの概要ページを開くときに 5 秒から 7 秒の遅延が発生する。



問題	説明
EIC-68144	<jobID>searchExport_.log ファイル記述子の数を取得すると、それぞれの searchExport ジョブに対するファイル記述子の数が誤って多く表示される。
EIC-68128	Enterprise Data Catalog で、[データ所有者] フィールドに複数のデータ所有者を追加すると、既存のリストに名前が追加されず、以前に追加されたエントリが置き換えらる。
EIC-68116	Advanced Scanner で Oracle リソースを正常にスキャンした後に、Enterprise Data Catalog に関数の完全なコードが表示されない。
EIC-68062	属性、子、および孫を含む Oracle スキーマをエクスポートすると、エクスポートによって Enterprise Data Catalog の応答を停止する。この問題により、検索結果に追加の情報が表示されなくなります。
EIC-68059	Enterprise Data Catalog で、アプリケーション設定で検索プレフィルタを無効にしてアプリケーションを再起動すると、プレフィルタ設定が誤ってリセットされる。
EIC-68056	Hive データベースのプライマリキーが Catalog のユーザーインターフェースに表示されない。
EIC-67982	テーブル名に引用符が含まれている場合、Enterprise Data Catalog のプロファイルテーブルのカラムが選択できない。
EIC-67980	参照されたリソースに対する権限がない場合、リネージュビューに部分的なフローのみが誤って表示される。
EIC-67972	最初の空のバッチを返す結果をフィルタリングすると、AWS Glue SDK を使用している Informatica EDC の Glue Scanner で有効なデータがスキップされ、途中で終了することがある。この問題は、データベース内のシーケンスの後のテーブルで発生します。
EIC-67970	[アセットリレーション] タブでアセットのリレーションを表示できず、次のメッセージが表示される。 リレーション図が大きすぎて表示できません。
EIC-67946	Google BigQuery スキャナが、ビュー DDL に COALESCE 関数を含むカラムのリネージュを抽出できない。
EIC-67901	API または UI を使用してシノニムを送信すると、データ検証が不十分になる場合がある。この問題により、データの破損やアップロードの失敗が発生する可能性があります。
EIC-67790	SAP Business Objects (BO) のリネージュビューで、不適切なデータプロバイダにクエリが関連付けられる。
EIC-67785	[リネージュと影響] サマリに引用符 (") を含む名前を含んだフィルタを適用すると、Enterprise Data Catalog でフィルタ名が表示されない。
EIC-67780	アップグレード後に、管理者以外のユーザーに対する変更通知ポップアップの読み込みが遅延する。

問題	説明
EIC-67773	Amazon S3 Hive Style CSV のプロファイリングが、次のエラーで失敗する。 An error occurred during creation of ReadOperation : java.lang.RuntimeException: Internal error.The native type system does not support the data type [] in the native metadata field.
EIC-67759	Catalog のユーザーインターフェースで、カラム、テーブル、ビューなどのアセットを開くときに 10 秒以上の遅延が発生する。
EIC-67740	「フィルタの適用」設定に、リレーションまたはアセットタイプの実際の数と一致しない誤ったカウントが表示される。
EIC-67738	リネージュと影響に対する保存済みフィルタのリストを並べ替えることができていなかった。
EIC-67689	Hive スタイルのディレクトリと非 Hive スタイルのディレクトリでプロファイリングを同時に実行すると、Amazon S3 V2 スキャナの Spark プロファイリングが失敗する。
EIC-67685	Informatica Data Quality スキャナが、用語集データオブジェクトを含むスコアカードの抽出に失敗する。
EIC-67449	Enterprise Data Catalog の UI で、Amazon S3 V2 および Amazon S3 V2 (テクニカルプレビュー) のリソースタイプがフィルタに誤って表示される。
EIC-67237	Red Hat Enterprise Linux 9 証明書と MongoDB の依存関係。MongoDB チケット参照: <a href="https://support.mongodb.com/case/01297819">https://support.mongodb.com/case/01297819</a>
EIC-67122	Enterprise Data Catalog 10.5.5 で Azure Directory JDBC (v2 以外) 接続が失敗し、次のエラーが発生する。 Failed to load MSAL4J Java library for performing ActiveDirectoryPassword authentication.
EIC-66850	Snowflake 外部テーブルビューにデータドメイン情報が表示されない。
EIC-66724	接続の割り当て後に Mongo データベース内の解決済みリソースを削除または消去しても、古いリンクがそのまま残る。
EIC-66597	250 を超えるセキュリティグループに権限を割り当てると、API 呼び出しのページサイズ制限により、UI での表示に問題が発生する。
EIC-65872	Catalog の UI に、カスタムリソースアセットタイプに対する誤ったロシア語翻訳が表示される。
EIC-64363	Catalog Administrator のリソース設定ページでテキストボックスを編集すると、キーボードの左ボタン操作によって画面が誤って前のページに移動する。
EIC-61689	データ所有者、データスチュワード、または SME をリソース設定に追加すると、カタログ管理者がユーザーアカウントの詳細にユーザーのグループ名を表示できなくなる。

## 実装された拡張要求

以下の表に、実装された拡張要求を示します。

問題	説明
EIC-67952	Azure Databricks の詳細スキャナリソースに対して、メタデータの読み取りとすべてのデータの権限を設定できてしまう。
EIC-68111	ユーザーインターフェースまたは REST API を使用して、アセットのシステム属性を一括エクスポートできてしまう。

## Informatica Analyst の修正された問題（10.5.7）

### 修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDQ-10808	バージョン 10.5.4.1 の Analyst ツールでプロファイルを編集すると、次のエラーが発生する。 java.lang.RuntimeException: java.lang.RuntimeException: java.lang.IndexOutOfBoundsException
IDE-5819	プライマリノードがダウンしている場合に、infacmd ps executeprofile コマンドが次のエラーで失敗する。 [IDP_0006] Error aborting profile {0} as it is currently not running']

## On Premise Connectivity Fixed Issues (10.5.7)

### Fixed Issues

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

Issue	Description
OCON-31376	When you read data from Google BigQuery using the direct method, Data Preview or Data Mapping display empty values for timestamp data types if the previous column contains null values.
OCON-31308	When you set up an ODBC connection with the subtype Snowflake, an unexpected error occurs in the physical data objects (PDO).
OCON-31288	PowerExchange for PostgreSQL fails to join multiple source tables when you use a Platform Expression join type.

Issue	Description
OCON-31268	When you connect to the endpoint, Informatica PowerExchange for Snowflake logs messages for failed connections.
OCON-31220	When you upgrade to the latest version, the Consumer Transformation REST API erroneously sends a malformed JSON request with missing opening brackets.
OCON-31219	When you map data from Oracle with the Float data type to a flat file with dynamic mapping, the target incorrectly converts the Float data to Double. The conversion causes data truncation along with an incorrect precision and scale in the flat file target.
OCON-30336	When you select the import option for a JDEEO object from the source tab, the DSN wizard fails to respond and the JDEEO object import fails with the following error: "unable to open optionselection.xml"
CORE-10882	The SAP dynamic table reader connector fails in most locales other than in English.

## PowerCenter の修正された問題 (10.5.7)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
CORE-9125	PostgreSQL データベースでのリポジトリの復元が完了するまでに非常に長い時間がかかる。
CORE-9074	SSL 対応の PostgreSQL データベースを使用して新しいデータリポジトリを作成すると、リポジトリサービスによるデータベースへの接続が失敗する。
CORE-10917	PowerCenter の標準トレースレベルでセッションを実行すると、セッションログにデバッグ関連のログメッセージが含まれる。
CORE-10904	PowerExchange の XML ターゲットでメモリリークの問題が発生する。
CORE-10903	式トランスフォーメーションからフラットファイルターゲットに 1 つ以上のポートをリンクすると、メモリ割り当てが指数関数的に増加するため、マッピングが失敗する。
CORE-10887	競合の解決方法として一部のオブジェクトに対して [置換] オプションを使用すると、オブジェクトのインポートがリポジトリの pmrep assert エラーで失敗する。
CORE-10882	ロケールをスペイン語に設定すると、Informatica SAP Dynamic Table Reader for PowerCenter が次のエラーで失敗する。 java.lang.NoSuchMethodError
CORE-10881	ショートカット付きの VSAM ソースを含むマッピングをインポートすると、グループ情報が表示されない。

問題	説明
CORE-10875	マスタ統合サービスが断続的に応答しない状態になる。
CORE-10864	PowerCenter リポジトリ内の再利用できないセッションを削除すると、Microsoft SQL Server で次のデータベースエラーが発生する。 FmName: Execute Direct - [Informatica][ODBC SQL Server Wire Protocol driver] [Microsoft SQL Server]Incorrect syntax near 'D'.

## プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題（10.5.7）

### 修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDQ-10813	最新のデータ統合サービスにアップグレードし、スコアカード通知を有効にすると、通知が予期せず失敗する。
IDQ-10793	アップグレード後に、Informatica Data Quality でプロファイルの編集が失敗し、IndexOutOfBoundsException が発生する。
IDE-5827	スコアカードからのデータのエクスポートに制限を設定しても Analyst ツールではその制限が遵守されず、無効な行がすべてエクスポートされる。
IDE-5822	モデルリポジトリサービス（MRS）を 10.5.4 から 10.5.6 にアップグレードした後に、プロファイルを作成して保存すると、次のエラーが発生する。 Internal error.The specified IClass value is not valid.
IDE-5821	最新バージョンにアップグレードすると、Analyst ツールがプロファイルの追加に失敗する。
IDE-5819	マルチノードセットアップでプライマリノードが使用できない場合に、infacmd ps executeprofile コマンドによる他の使用可能なノードへの切り替えが失敗する。
IDE-5816	精度が 7500 を超えるカラムを持つフラットファイルオブジェクトでプロファイルを実行すると、プロファイルの実行が失敗する。
IDE-5780	プロファイルが成功した場合でも、データ統合サービスのログに誤った警告メッセージが表示される。
IDE-5775	Analyst ツールで Oracle データ用のプロファイルを作成し、プロファイルオプションとして [すべての行] または [最初の n 行] を選択してからプロファイルを実行すると、Analyst ツールに警告メッセージが表示される。
BDM-42362	指定したターゲットテーブルで Spark マッピングを実行すると、ジョブが Java 例外で失敗する。
BDM-42278	電子メールアドレスのドメイン名が 4 文字を超えている場合、Analyst ツールから電子メールサービスを通じてスコアカード結果通知を送信すると、Invalid Email Address というエラーが表示される。

問題	説明
BDM-42197	PowerExchange Web サービスですべてのデータ行が表示されない。
ANT-2920	電子メールアドレスの上位レベルのドメインが 4 文字を超えている場合、電子メールサービスによるスコアカード通知の配信が失敗する。
ANT-2900	Analyst ツールでのプロファイルの削除が失敗し、孤立した結果がプロファイルウェアハウスに残る。

## Test Data Management の修正された問題 (10.5.7)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
TDM-30461	Test Data Management で、TO_DATE 関数を含むパラメータファイルを使用してプランを生成して実行すると、プランの実行が次のエラーで失敗する。 ORA-00907: missing right parenthesis
TDM-30412	プロジェクトに 2 つの異なるターゲットスキーマパラメータが存在する場合、オーバーライドプランのターゲット pre-SQL の切り詰めクエリによる他のスキーマのテーブルの切り詰めが失敗する。
TDM-30391	データソース設定をオーバーライドせずに、オーバーライドプラン設定でパラメータ化された切り詰めクエリ（ターゲット presql）を実行すると、実行が失敗する。この問題は、データの読み取りと書き込み中に Test Data Management がスキーマ名を数値に変更するために発生します。
TDM-30373	ID コマンドタスクを無効にすると、次のエラーが発生する。 Cannot DROP VIEW 'Person.Person_View' because it is being referenced by object 'OfficeKeyPersonEmail_View'.
TDM-30365	ドロップビューエラーのため、アイデンティティタスクを無効にすることができなかった。

## サードパーティ 製品に関する修正 (10.5.7)

### 修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IIS-5963	Spark 3.3.2 と統合された CDP 7.1.9 では、アグリゲータトランスフォーメーション、ランクトランスフォーメーション、またはソータトランスフォーメーションを含むストリーミングマッピングで例外エラーが発生する場合があります。これは、Data Engineering Streaming 10.5.6 では CDP 7.1.9 をサポートしていないためです。 Cloudera チケット番号: 1044556
EIC-67985	Oracle Business Intelligence Publisher を使用してレポートを作成すると、Oracle Business Intelligence リソースでリポジトリサブセットブラウザが表示されない。 Miti チケット番号: INFADGC-266 <a href="https://metaintegration.atlassian.net/browse/INFADGC-266">https://metaintegration.atlassian.net/browse/INFADGC-266</a>
BDM-42557	Elastic MapReduce 7.1 の自動デプロイが、次のエラーでタイムアウトする。 <code>java.lang.RuntimeException: Unable to finish within Timeout Period [3600s]</code>

## 10.5.7 の既知の問題

このセクションには、10.5.7 で見つかった既知の問題が含まれています。

### Data Engineering Integration の既知の制限事項（10.5.7）

以下の表に 10.5.7 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
BDM-42577	Spark エンジン上の HDInsight 5.1 WASBS 非 Kerberos クラスタでマッピングを実行すると、マッピングが失敗し、次のエラーが発生する。 <code>\$INFA_HOME/services/shared/hadoop/HDInsight_5.1/spark/bin/infa-spark-class: line 86: exec: : not found</code>
BDM-42575	Elastic MapReduce 6.4 または 7.1 の Blaze モードで、Hive ソースと timestamp データ型を含む Hive ターゲットを使用してマッピングを実行すると、マッピングが失敗し、次のエラーが発生する。 <code>java.lang.ClassCastException: class org.apache.hadoop.hive.serde2.io.DateWritable cannot be cast to class</code>
BDM-42546	Cloudera Data Platform 7.2.18 の Spark エンジンで動的 htype データの読み取りを行う Java トランスフォーメーションを使用してマッピングを実行すると、マッピングが失敗し、次のエラーが発生する。 <code>Caused by: org.apache.spark.sql.AnalysisException: [DATATYPE_MISMATCH.UNEXPECTED_INPUT_TYPE]</code> 回避策: Cloudera Data Platform 7.2 パッケージを使用して、マッピングが以前に正しく機能していたクラスタのクラスタ設定オブジェクトを作成します。



問題	説明
BDM-42524	Cloudera Data Platform 7.2.18 で、複合 Hive データソースと複合 Hive ターゲットを使用して Spark エンジンでマッピングを実行すると、マッピングが失敗し、次のエラーが発生する。 Caused by: org.apache.spark.sql.AnalysisException: [UNSUPPORTED_FEATURE.LATERAL_COLUMN_ALIAS_IN_WINDOW] The feature is not supported: 回避策: Cloudera Data Platform 7.2 パッケージを使用して、マッピングが以前に正しく機能していたクラスタのクラスタ設定オブジェクトを作成します。
BDM-42514	Hadoop 分散ファイルシステム上の Avro、Parquet、または PDF ソースと HDInsight 5.1 ADLS Gen2 非 Kerberos クラスタ上のデータプロセッサを使用してマッピングを実行すると、マッピングが正常に実行された場合でも、ターゲットにデータが含まれない。
BDM-42499	Cloudera Distributed Hadoop 7.1 ジョブをルックアップとして Sqoop を使用して実行すると、日付フィールドに MM/DD/YYYY HH24:MI:SS タイムスタンプ形式を使用している場合にデータの不一致が発生する。
BDM-42459	Spark モードの HDInsights 5.1 ADLS Gen2 非 Kerberos クラスタで圧縮されたソース形式でマッピングを実行すると、マッピングが正常に実行された場合でも、ターゲットにデータが含まれない。
BDM-42355	Spark 3.4.1 エンジン上の Cloudera Data Platform 7.2.18 AWS Kerberos クラスタで htype データの読み取りを行う Java トランスフォーメーションを使用してマッピングを実行すると、マッピングは失敗し、次のエラーが発生する。 org.apache.spark.sql.AnalysisException: cannot resolve 'jtxcast('0`)' due to data type mismatch: Cannot jcast StructType
BDM-42354	Spark 3.4 エンジン上の Cloudera Data Platform 7.2.18 Kerboros クラスタでマッピングを実行すると、行の日付がサマリ統計に適切に表示されない。

## Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (10.5.7)

以下の表に 10.5.7 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-6024	Cloudera CDP バージョン 7.2.1.8 の日付フィールドを持つ Kafka ソースと Oracle ターゲットでストリーミングマッピングの実行が失敗していた。

## Informatica Data Quality の既知の制限事項(10.5.7)

以下の表に 10.5.7 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IDQ-10810	Cloudera Data Platform 7.2.18、HPE Ezmeral Data Fabric バージョン 7.2.x EEP 9.2.0、Azure HDInsight バージョン 5.1、Amazon EMR リリースバージョン 7.1.0、Dataproc 2.0 などの Hadoop ディストリビューションで、Blaze モードで一致トランザクションを使用して Informatica Data Quality マッピングを実行すると、マッピングプロセスが失敗し、次のエラーが発生する。 <code>com.informatica.dtm.transport.DTFUncheckedException: [[DtmDTF_0001] Data Transport Error, Origin :[IProxyDTMService :: getSessionExecutionState RPC]</code> 回避策: マッピングを Spark モードまたはネイティブモードで実行します。

## Enterprise Data Catalog の既知の問題 (10.5.7)

以下の表に 10.5.7 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
EIC-68602	MAPR HDFS リソースのテスト接続が、maprfs ロケーションのパスが無効であるために失敗する。
EIC-68292	Tibco Spotfire 14.x でライブラリを参照すると、次のエラーが発生する。 <code>MITI.MIRException: org.apache.axis2.AxisFault: Transport error: 405 Error</code>
EIC-68227	[通知] ページを開いて通知を検索するときに遅延が発生する可能性がある。
EIC-68305	IICS スキャナを実行すると、メタデータの読み込みとステージングのステップで大幅な遅延が発生する可能性がある。
EIC-68279	PowerCenter リソースのスキャンを実行すると、メタデータの読み込みとステージングのステップで大幅な遅延が発生する可能性がある。

## Informatica Developer の既知の問題 (10.5.7)

### 修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-31284	PowerCenter 統合サービスプロセスが断続的に応答しない状態になり、ログに次のエラーが記録される。 <code>[[PCSF_10342] [PCSF_10342] Exception occurred: [null]. [FAULT_PCSFHARDEXCEPTION]</code>

## On Premise Connectivity Known Issues (10.5.7)

The following table describes known issues that were found in 10.5.7:

Issue	Description
OCON-31587	When you add a value to the External Data Source option in the PowerExchange for Microsoft Azure Data Warehouse connection properties, the Microsoft Azure Data Warehouse mappings fail. Workaround: Configure the connection properties without entering an External Data Source value.
OCON-31569	The PowerCenter Integration Service fails to run the Google Cloud Spanner mappings and the following error occurs: <b>[ERROR] java.lang.NoClassDefFoundError: com/google/common/base/Preconditions</b>
OCON-31566	When you read or write data from Microsoft Azure SQL Data Warehouse with the staged files in the Parquet format, the Spark mappings that run on HDInsights 5.1 fail with the following error: <b>org.apache.parquet.schema.OriginalType.STRING</b>
OCON-31528	Metadata import fails for Tableau V3 connections with an SDK exception. The SDK exception can also occur for mappings that you upgrade from previous releases.

## サードパーティ製品に関する既知の制限事項(10.5.7)

以下の表に、サードパーティの既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-6015	Apache Spark と統合された Azure HDInsight 5.1 環境で Kafka ソースと Hive ターゲットを使用してマッピングを実行すると、マッピングが次のエラーで失敗する。 <b>java.lang.NoClassDefFoundError: org/apache/spark/sql/sources/v2/DataSourceV2</b>
IIS-5989	Apache Spark と統合された Cloudera Data Platform 7.2.18 で Kafka ソースと Hive ターゲットを使用してマッピングを実行すると、マッピングが次のエラーで失敗する。 <b>java.lang.ClassNotFoundException: com.hortonworks.spark.sql.hive.llap.streaming.HiveStreamingDataSource.DefaultSource</b>
BDM-42505	ネイティブモードで Gen 2 から Gen2 へのマッピングを実行すると、応答が停止する場合があります。 回避策: マッピングを正常に実行するには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>- hadoop-azure-3.3.1 jar ファイルを次のパスで置き換えます。 <b>INFA_HOME/services/shared/hadoop/HDInsight_5.1/lib/hadoop-azure-3.3.4.5.1.5.6.jar</b></li><li>- hadoop-azure-datalake-3.3.1 jar ファイルを次のパスで置き換えます。 <b>INFA_HOME/services/shared/hadoop/HDInsight_5.1/lib/hadoop-azure-datalake-3.3.4.5.1.5.6.jar</b></li></ul> <b>hadoop-azure-3.3.1 と hadoop-azure-datalake-3.3.1 jar ファイルはグローバルリポジトリからダウンロードすることができます。</b>

## 10.5.7 に統合された緊急バグ修正

Informatica では、以前のリリースの緊急修正（EBF）をバージョン 10.5.7 に統合しました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正を提供しています。

バージョン 10.5.7 に統合された EBF の一覧については、次の Informatica Knowledge Base の記事を参照してください:

<https://knowledge.informatica.com/s/article/FAQ-What-are-the-Emergency-Bug-Fixes-EBFs-merged-into-Informatica-10-5-7>

## 累積的な既知の制限事項

このセクションには、前のリリースから引き継がれた既知の制限事項が含まれています。

### Data Engineering Integration の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
PLAT-30505	Administrator ツールログのエラーコードをクリックすると、関連記事の代わりに Informatica ナレッジベースのホームページが表示される。
PLAT-30498	Administrator ツールから Informatica ナレッジベースを検索すると、500 内部サーバーエラーが表示される。
BDM-41987	MapR Hadoop ディストリビューションの Avro、Parquet、ORC などの複合ファイル形式をインポートできない。
BDM-39707	アップデートストラテジを使用して Kudu マッピングを実行すると、トランスフォーメーションの検証が失敗する。

### Data Engineering Streaming の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-5842	Kafka XML データオブジェクトが、「ダッシュ」の付いたフィールドを持つ複合 XML スキーマを検出すると、Hive テーブルへのデータのロードに失敗する。

## Enterprise Data Catalog の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
EIC-66428	エンリッチメント移行ユーティリティで、同じ名前と同じ親を持つオブジェクトのエンリッチメントを移行できない。 回避策: これらのオブジェクトのエンリッチメントを手動でインポートします。
EIC-60369	Enterprise Data Catalog のアドオンアプリケーションを Internet Explorer で開くことができない。
EIC-57719	Docker コンテナイメージを使用して Informatica ドメインを起動し、Enterprise Data Catalog Docker イメージを実行すると、アップグレードが失敗する。
ANT-2187	Administrator ツールで [デフォルトのスキーマを表示] オプションを選択すると、Azure SQL データベースのインポートに失敗する。

## オンプレミス接続の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
OCON-31311	PowerExchange for Message Queue を使用して同時ワークフローを実行し、1つのキューからメッセージの読み取りを行うと、メッセージの重複の問題が発生する。
OCON-29823	Scala 2.12 を搭載した Spark 3.x で実行される Azure Cosmos マッピングが、Scala バージョンの不一致エラーで失敗することがある。 回避策: azure-cosmos-spark_3-2_2-12-4.6.0-uber など、Azure Cosmos Scala コードバージョン 2.12 を更新します。
OCON-27531	WebSphere MQ ソースとフラットファイルターゲットを使用したメッセージリカバリ用のセッションを構成した場合、PowerCenter 統合サービスは失敗したセッションから未処理のメッセージをリカバリできないことがある。
OCON-27432	アップデートストラテジトランスフォーメーションを使用して完全なプッシュダウンの最適化のために PowerCenter 統合サービスを設定し、2つのテーブルを結合すると、Google BigQuery セッションが失敗する。

## サードパーティ 製品に関する既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
OCON-30416	最新の SAP NW RFC SDK 7.5 ライブラリパッチ 11 を使用した単一のセッションで複数の BAPI を使用することはできない。
BDM-42563	Elastic MapReduce 6.4 の式トランスフォーメーションで、フラットファイルソースと日付をミリ秒としてマッピングを実行すると、マッピングが次のエラーで失敗する。 <code>java.lang.NoSuchMethodError: 'int org.apache.spark.sql.catalyst.util.DateTimeUtils\$.millisToDays(long)</code>
BDM-41746	詳細プロパティで Spark 動的割り当てを有効にすると、Spark エンジンで実行されるマッピングが失敗する。
IIS-5702	JSON でフォーマットされ、配列として struct が設定された Kafka ソースを持つマッピングのデータレビュージョブを実行すると、次のエラーが発生する。 <code>org.apache.avro.SchemaParseException</code>